



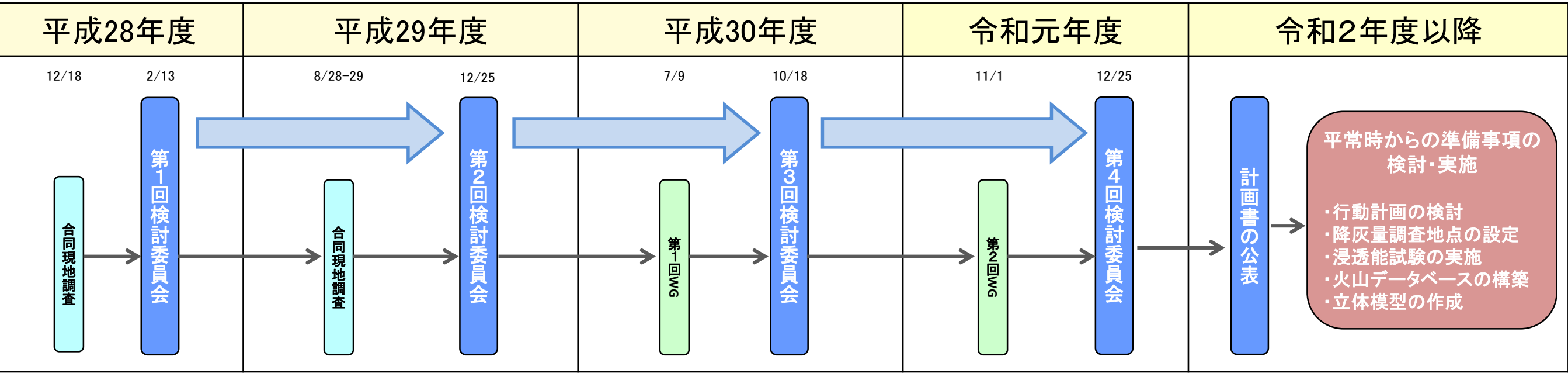
白山火山噴火緊急減災対策砂防計画について

検討の経緯

白山では平成28年度より白山火山噴火緊急減災対策砂防計画の検討を開始しました。関係する行政機関が一緒になって検討を進める「白山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会」が設置され、これまで4回の検討委員会が開催されました。白山火山防災協議会への報告が終了し、令和3年3月に計画が策定されました。

この計画は「噴火に備えた対策」と「噴火した時の対策」について必要となることを決めておき、万が一噴火したときに生じる被害を出来るだけ軽減（減災）させる事を目的としています。

これまでの検討状況



第1回検討委員会
(H28/2/13)
防災食館3階ホール

<討議内容>
◆火山噴火緊急減災対策砂防計画の概要
◆現状の把握
◆噴火シナリオについて

第2回検討委員会
(H28/12/15)
石川県文芸会館

<討議内容>
◆規約の改正
◆傍聴規定の改正
◆第1回委員会の指摘事項への回答
◆緊急減災対策の対象現象



第3回検討委員会
(H30/10/18)
ITビジネスプラザ武蔵

<討議内容>
◆対策方針
◆緊急ハード対策
◆緊急ソフト対策
◆緊急対策の役割分担

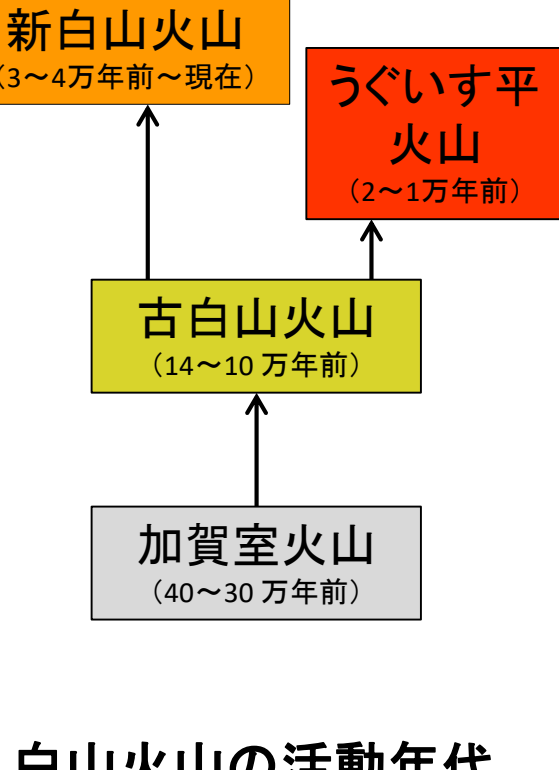
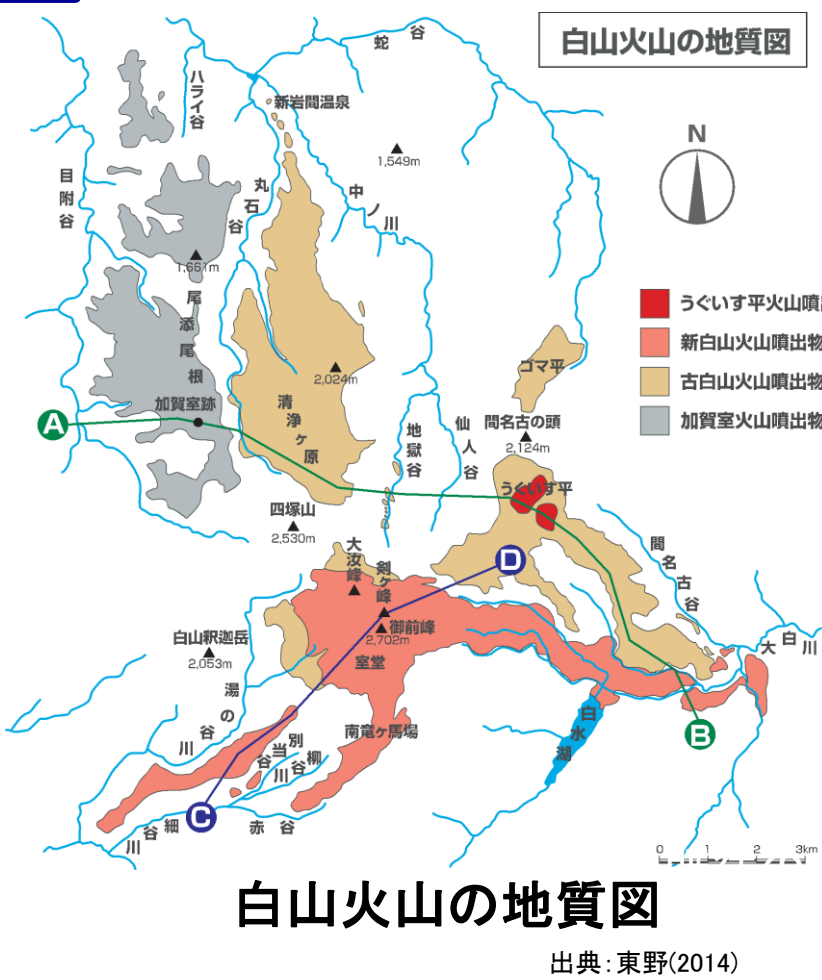
第4回検討委員会
(R01/12/25)
石川県労働者福祉文化会館

<討議内容>
◆平常時からの準備事項
◆白山火山噴火緊急減災対策砂防計画(案)について

白山火山の噴火の特徴

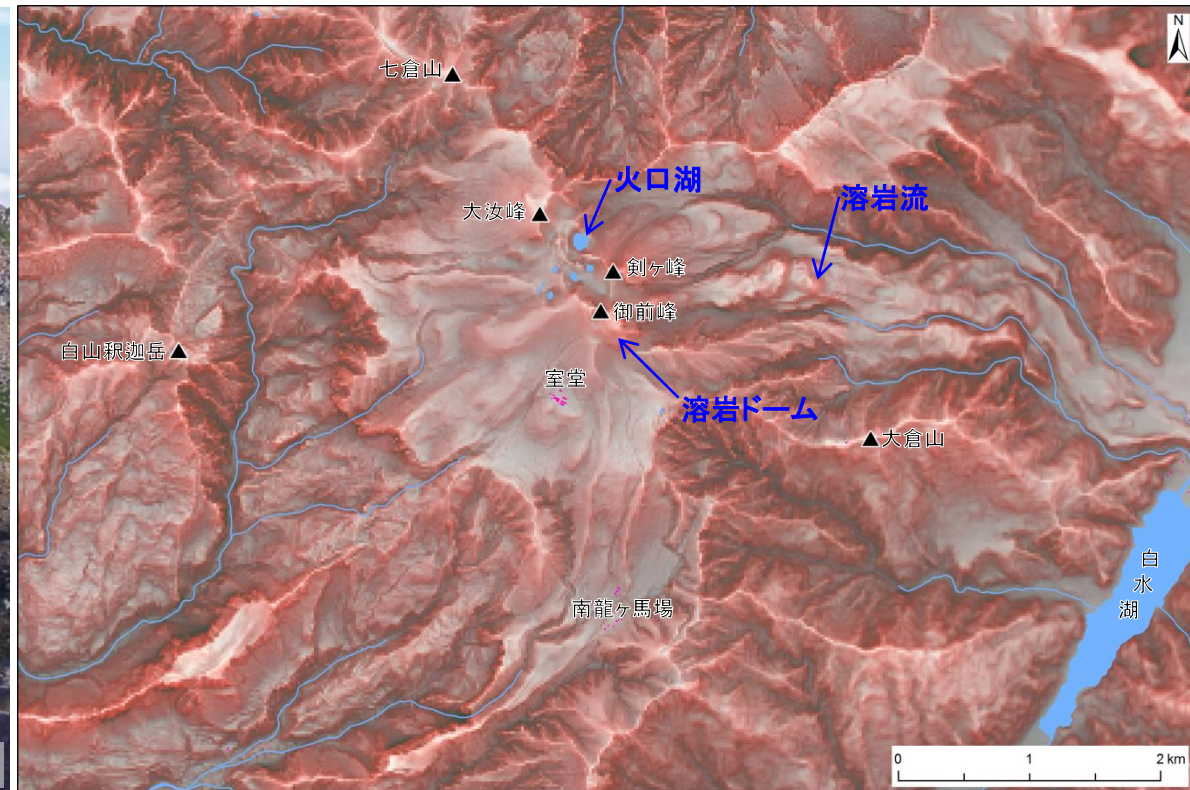
白山火山の形成史

- 白山火山の形成史は、噴出中心を異にする成層火山の形成期と侵食期によって、加賀室火山、古白山火山、新白山火山に区分できます。
- 古白山火山の南東斜面にうぐいす平火山が存在しますが、活動期は新白山火山形成期の1~2万年前と推定されています。



白山火山の地形

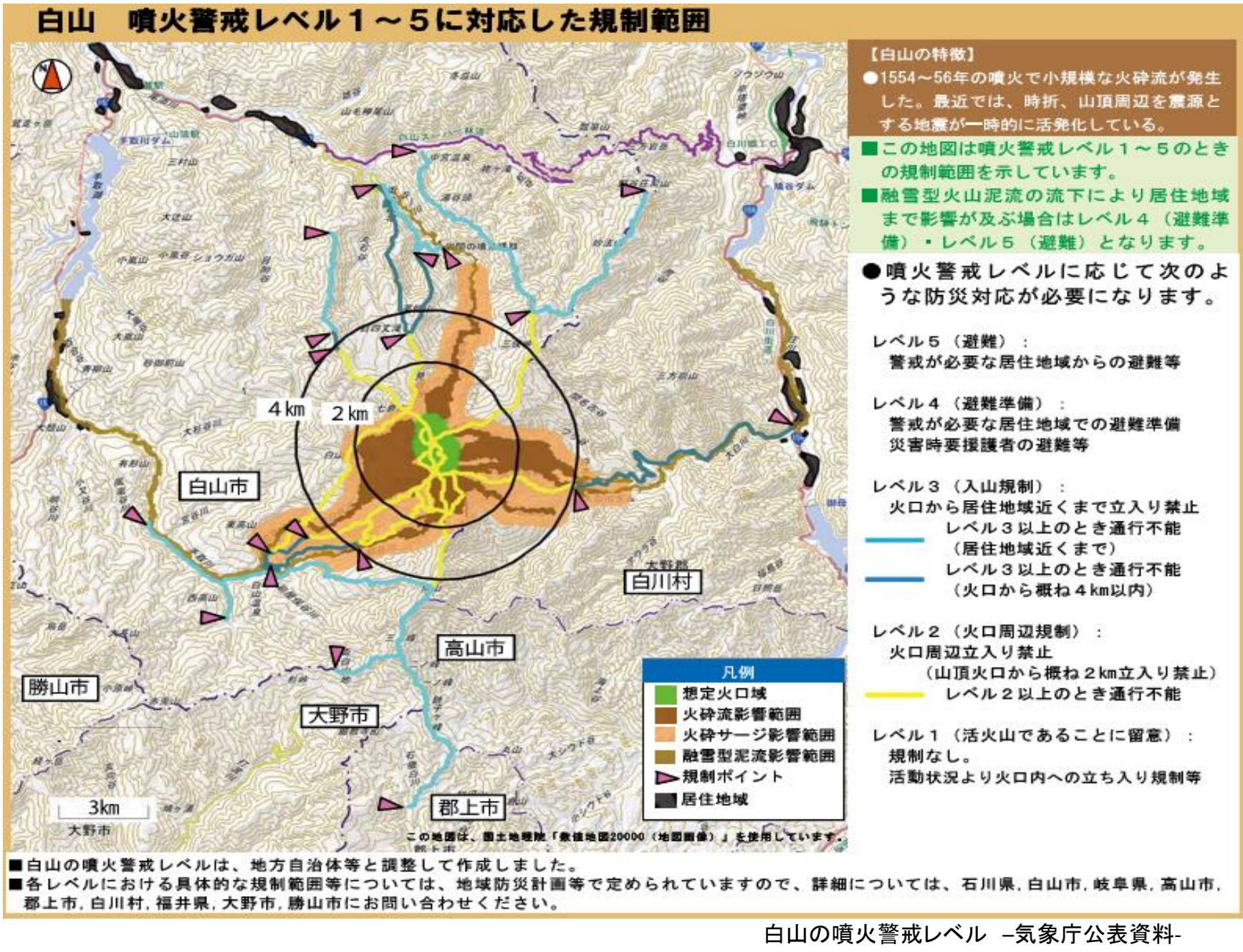
- 白山山頂周辺には、溶岩ドームや火口が複数あります。火口には水がたまり、火口湖となっています。
- 山頂東側には約2200年前に噴出した溶岩流の地形が鮮明に残っています。



噴火警戒レベルと想定される影響範囲

噴火警戒レベルに対応した規制範囲

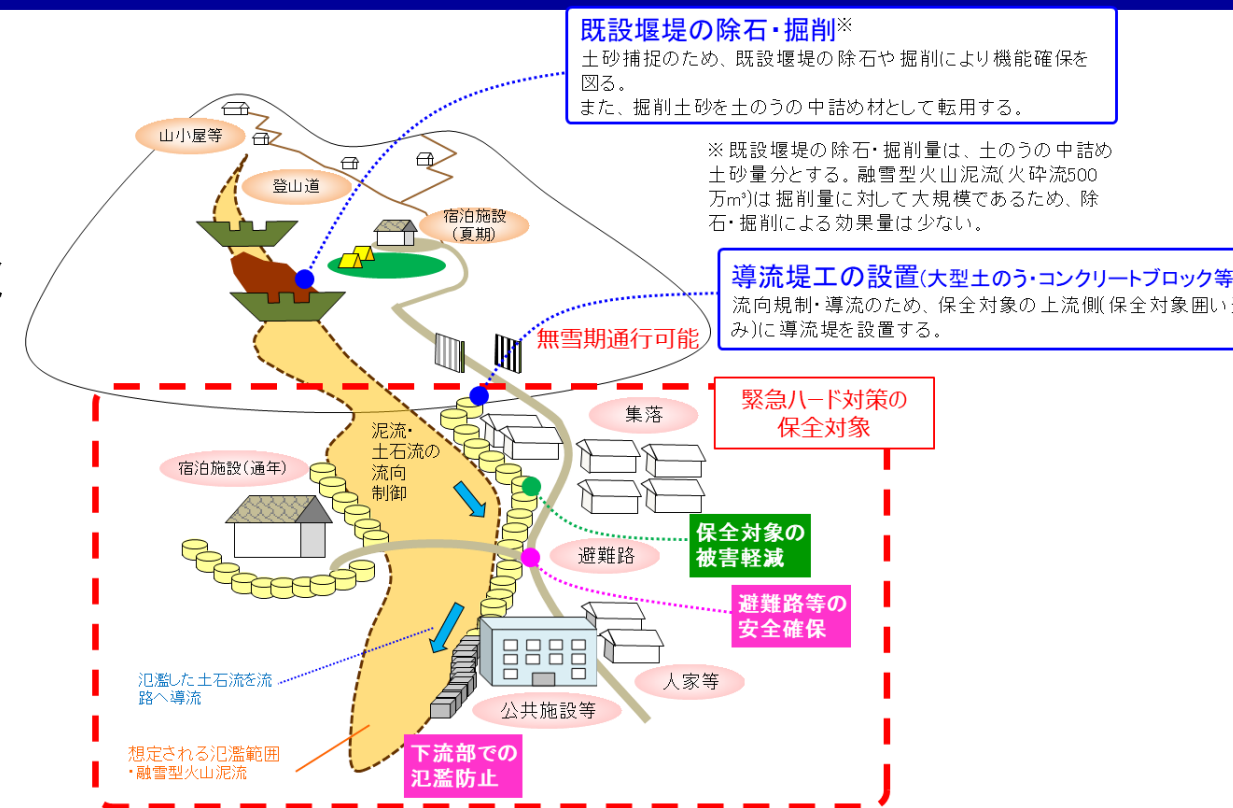
- 白山の噴火シナリオおよび影響範囲は、白山火山防災協議会によって検討されています。
- 右図は噴火警戒レベルに対応した規制範囲の図です。
- 積雪期に噴火が発生すると、融雪型火山泥流が居住地まで到達すると想定されています。



緊急減災対策の検討

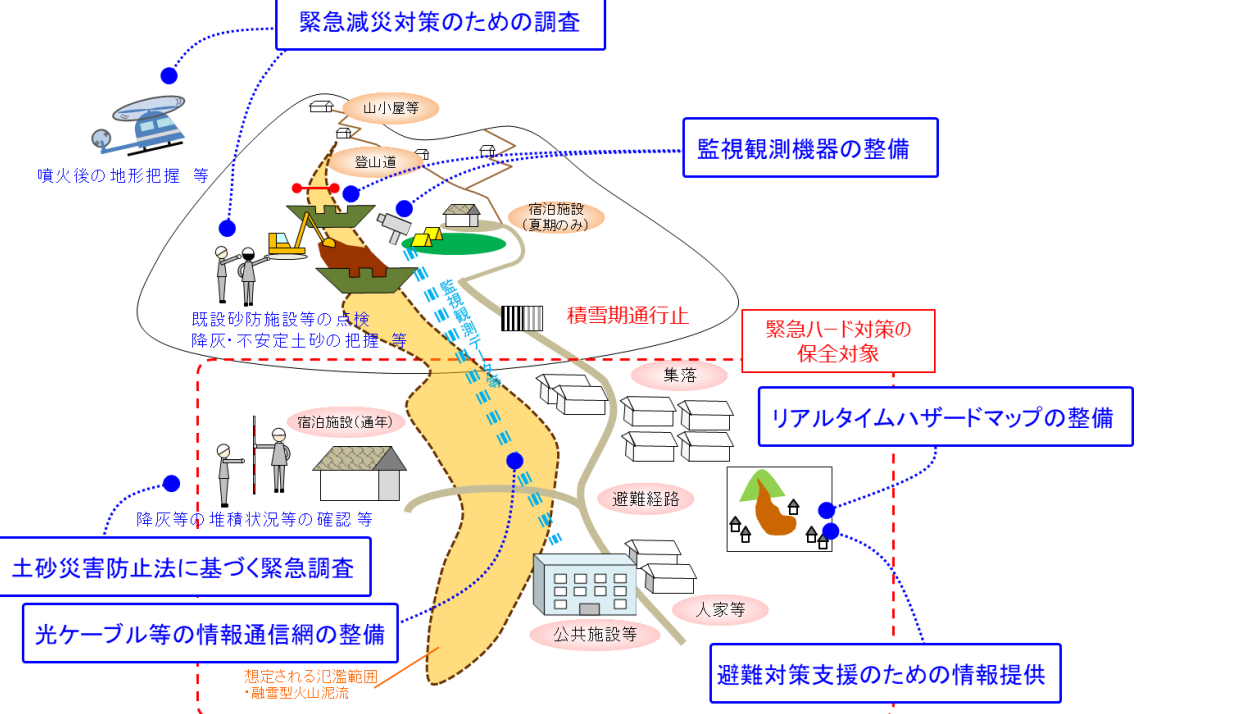
緊急ハード対策の検討

- 噴火時の土砂移動の発生で想定される被害影響を少しでも減らすための施設設置に関する検討をしました。
- 白山では既設堰堤の除石・掘削による土砂の捕捉と、導流堤工の設置による流向規制・導流を行う方針としています。



緊急ソフト対策の検討

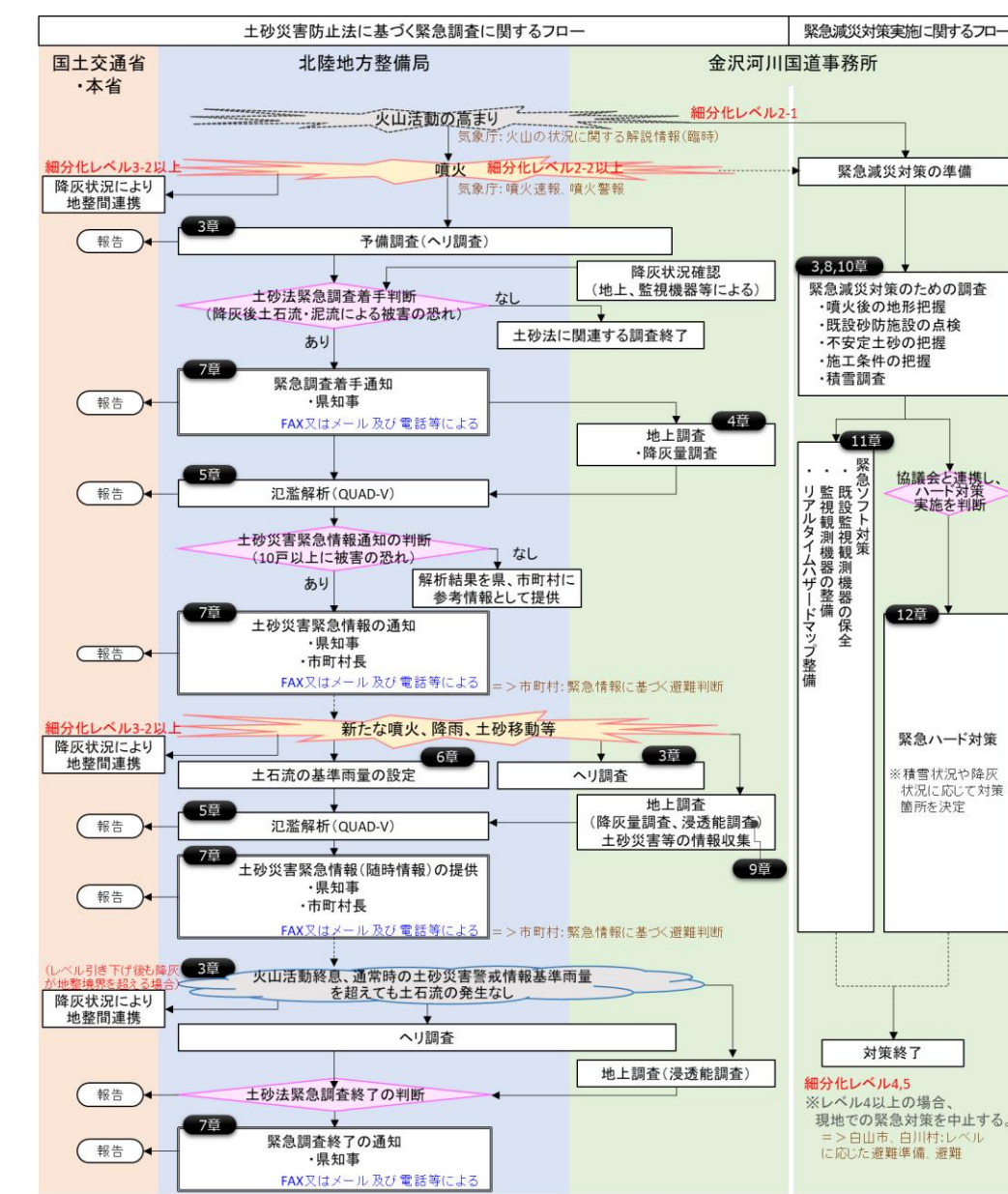
- 噴火時の避難を支援するための情報提供や緊急的な監視・観測機器（監視カメラや土砂移動検知センサーなど）の増強などを行う方針としています。
- 土砂災害防止法に基づく緊急調査や緊急減災対策のための調査も実施する方針です。



平常時からの準備事項の検討・実施

行動計画の作成

- 金沢河川国道事務所が実施する項目について行動フローを作成し、各項目で実施する内容をまとめた行動計画を作成しています。



- 金沢河川国道事務所では、白山の噴火に備えて、平常時から準備できる事項について、検討・実施を進めています。

降灰量調査地点の設定

- 土砂災害防止法に基づく緊急調査として実施する降灰量調査の実施箇所について、メッシュを区切って事前に調査地点を設定しています。
- 迅速な調査ができるように調査地点ごとの台帳を作成しています。
- 事務所職員向けの降灰量調査訓練も実施しています。



火山データベースの構築

- 火山噴火時に必要な資料をとりまとめたデータベースを構築しています。
- ハザードマップのGISデータや緊急ハード対策の施工計画書、委員会資料、関係機関の連絡先などを網羅した内容としています。

白山立体模型の作成

- 地域住民や教育関係者等への普及啓発を目的として、白山周辺の立体模型を作成しています。
- 軟質な素材を使っているため、折りたたんで運ぶこともできます。
- 立体模型は白山砂防科学館で見られるほか、周辺自治体や防災教育に白山砂防科学館を訪れた学校に配布しています。

